

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設9年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にいながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	高橋舞子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	1人	3人	1人	0人	15人	0人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>より社会資源を知りケアプランに反映していきます。</li> <li>サービス担当者会議もサービス事業所だけでなく近所や友人、支援者などケアへの意見を聞ける場を増やしていくのが目標。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前より保健師や地域包括支援センター職員へ参加していただく回数は増えた。若年性認知症や精神疾患のケースなどは必ず入っていただき今起きている現状を共有している。</li> <li>業務日誌を変更し情報の共有をしやすくした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援ということを基本におき、危ないからさせないではなく、どうしたらその人の能力が発揮されるかを考えてケアを提供してくれていると思います。</li> <li>サービス担当者会議に地区保健師も加えてほしいしかし必要に応じてよいのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員には難しいが町の特色でもある地区保健師制は家族・地域との繋がりが深いことを再認識し、特に独居と家族に疾病や困難ケースに関してはビックアップし年間のモニタリングや更新計画を作成し地区保健師を含めた担当者会議を開催していく。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は和室にテレビやお茶道具などもあることで自宅のお茶のみに近い雰囲気人が集う場が提供できるのではないかとの意見もあり検討していきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こたつや椅子を準備し、ソファの場所も変更したりしながら、お客様がくつろいでいる今の様子が出来上がってきた。</li> <li>行事のたびにフロアの写真も入れ替えて日々の会話に取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆さんくつろいでいますね</li> <li>家庭的ですよ</li> <li>お茶がいつでも飲めるのはいいですね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の要望をお聞きしながら、ビフォーアフターで可視化した環境評価を行い、自立支援を促せ、自然にコミュニティが作れる空間を作る。</li> <li>居室空間の充実も図っていく。</li> </ul>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事、祭、イベント、会議などへの継続的な参加をしていきます。施設で地域貢献できる活動を計画し町内へお誘いしていくこと、買物、外出などで職員と利用者が一緒になり出かけている姿を見てもらうことで施設の周知をしていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に買い物や地域へ出る機会はある。食事を食べに行ったりお茶を飲みに行ったりしている。</li> <li>喫茶には老人クラブ会長が定期参加してくれるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の範囲で名前だけでも知っているのだろうか</li> <li>参加することで職員の負担にしなければよいが・・・個人情報のあることあるし難しいことも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域老人クラブの方も運営推進会にお誘いし情報共有を図る。</li> <li>家族の同意をとった上で利用者や地域の心配な方の運営推進会議を活用し、行方不明の可能性のあるお客様の情報共有を行う。</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の所在の町内会だけでなく、ほかの地域へ赴いてのカフェ活動を行う予定です(不定期年2回を目標)引き続きSOS探索訓練への参加(職員もお客様も)をしていきます。</li> <li>企業団体へのサポーター養成講座の開催や他事業所への認知症ケアの啓蒙活動を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古民家カフェは7月～10月まで4回の開催</li> <li>探索訓練年2回実施</li> <li>サポーター養成講座は地域の他事業所で実施。新人職員に参加してもらい講座をした、アクションプランを事業所評価のBの改善として取り組んだことで成果がでている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この町内との交流はあるが利用者各々の地域との交流までは広がらない。ご家族様の意向もあるのでこちら側の意向や評価と一致させるのは非常に難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のケアの継続</li> <li>キャラバンメイト養成講座を開催し、町にメイトを増やしサポーター養成講座を各地域で開催するお手伝いをする。(10月)</li> <li>湯沢学園でのサポーター養成講座の開催(1回)</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域からの意見を反映しながらカフェや納涼祭が地域の社会資源としてより活用されるように周知活動も積極的に行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭りは毎年町内会の方がお手伝いしていただいたり、マンション住民が毎年参加していただいたり社交の場となっている。</li> <li>職員採用に関しても運営推進会議でお願いをして情報を発信していただいた方と、パート雇用するなど運営面でも成果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのくらい職員が足りませんか？どの時間帯で来てくれるとよいですか？</li> <li>食事つくりで昼・夕方など4時間程度来ていただくと職員が訪問やお客様に手厚く関われる時間を確保できます。次年度は定員を29名に増員する予定です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症カフェを介護や認知症に関する様々なことの相談の場として機能させる。家族同士の悩みを共有の場などへ活性化。(開催月)</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議の場を防災訓練とすることで、皆さんに参加していただき、意見をお聞きすることで負担なく参加していただけるように計画します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は消防団に加え、町内会長や喫茶参加のご近所の皆さんが参加してくださった。町内会長より地域の課題もお話しくださり地域の連絡網の訓練を試みたいとの話も挙がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回参加してみてそういえばこの地域で連絡網の訓練などもしたことがなくしてはならないなと感じた。</li> <li>消防団や喫茶に参加してくれる近所の方は参加してくれて顔なじみだからこそ慣れていた。自分たちもわかると話あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合防災訓練は消防団との時間の調整もあり平日は厳しいが、事業所の行方不明探索訓練や部分訓練やミニ訓練等は運営推進会議の時間を使用し防錆訓練を開催してみることで、委員の皆さんに実際を感じていただく。(1回)</li> </ul>